成人映画

創刊号・7

成人映画・目次　創刊7月号

■カラー・ピン・アップ■

緑魔子……27

■グラビア特集■

女優／内田高子……17

アーシュラ・アンドレス……23

——プレイボーイ誌最新号より——

■新作映画紹介／

7月のエロティシズム・シーン…6～11

26～29

■読みもの■

セクシー女優勤務評定……14

エロティシズム・モノローグ／

愛は匂いである… 花村禎次郎……30

本当のリアリティ…… 野鈴章……31

「冒瀆の罠」ロケ・ルポルタージュ…32

ピンク映画・みたまま……33

シネマＹ談……34

その時マバタキしないで

鈴木和夫……35

■マンガ■

ボクのシネ散歩…やなせ・たかし……40

●表紙の人／**路加奈子**

★「白日夢」で一躍スターになった。独立プロ作品で主役をやり、ピンク映画出身女優。目下、韓国合作映画「総督の娘」に出演中。２０才

表紙・カメラ／吉岡康弘

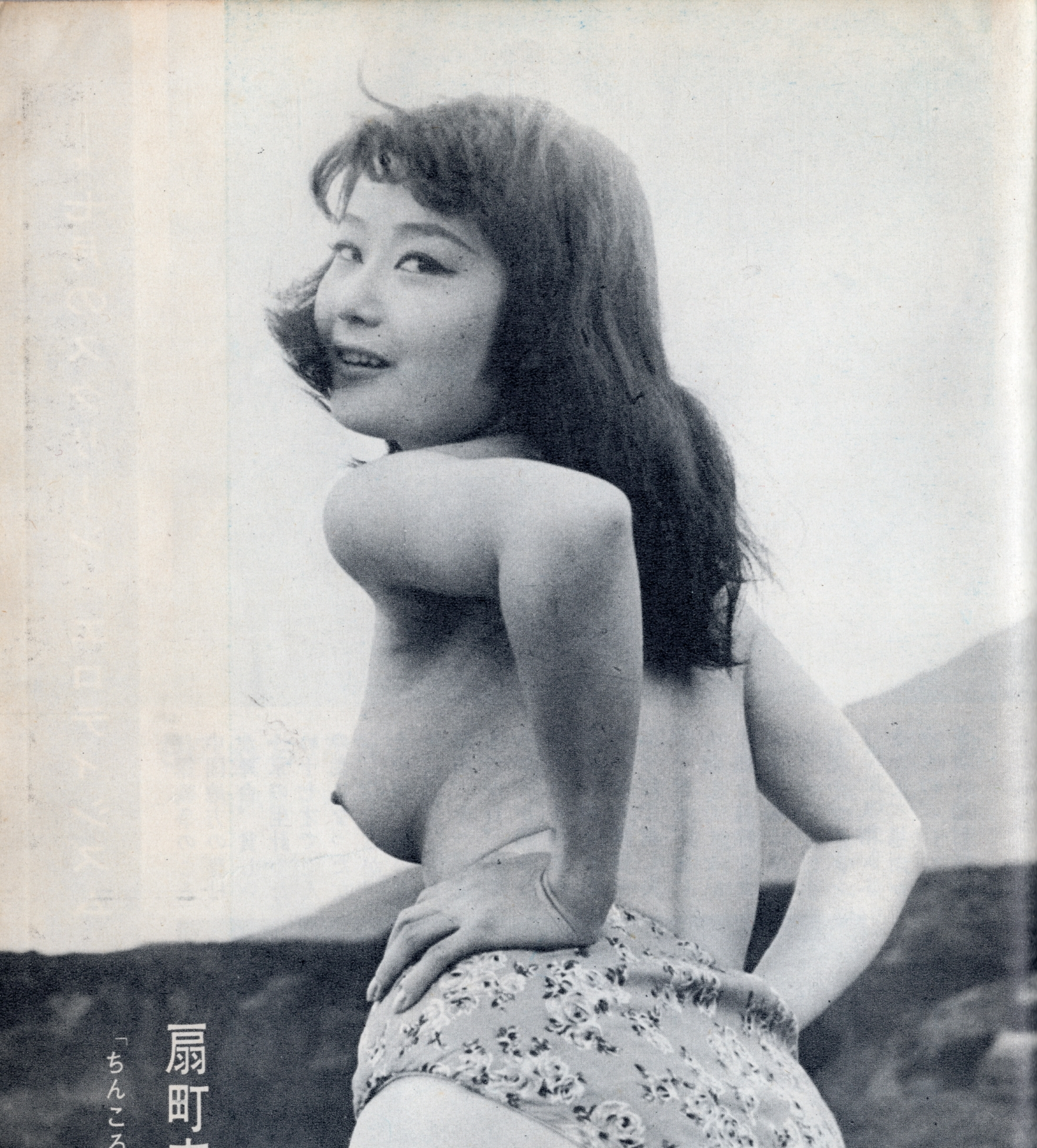
ピン・アップ・カメラ／田中真紀夫

■この新雑誌は映画のプレイボーイです

映画がつづく限り、映画のエロティシズム・シーンは限りなく描かれる。ここに東西の女優のセクシー・シーンを「徹底的」に紹介し〝エロティシズムのおとなの天国〟を謳いあげよう。それがこの雑誌の狙いだ。

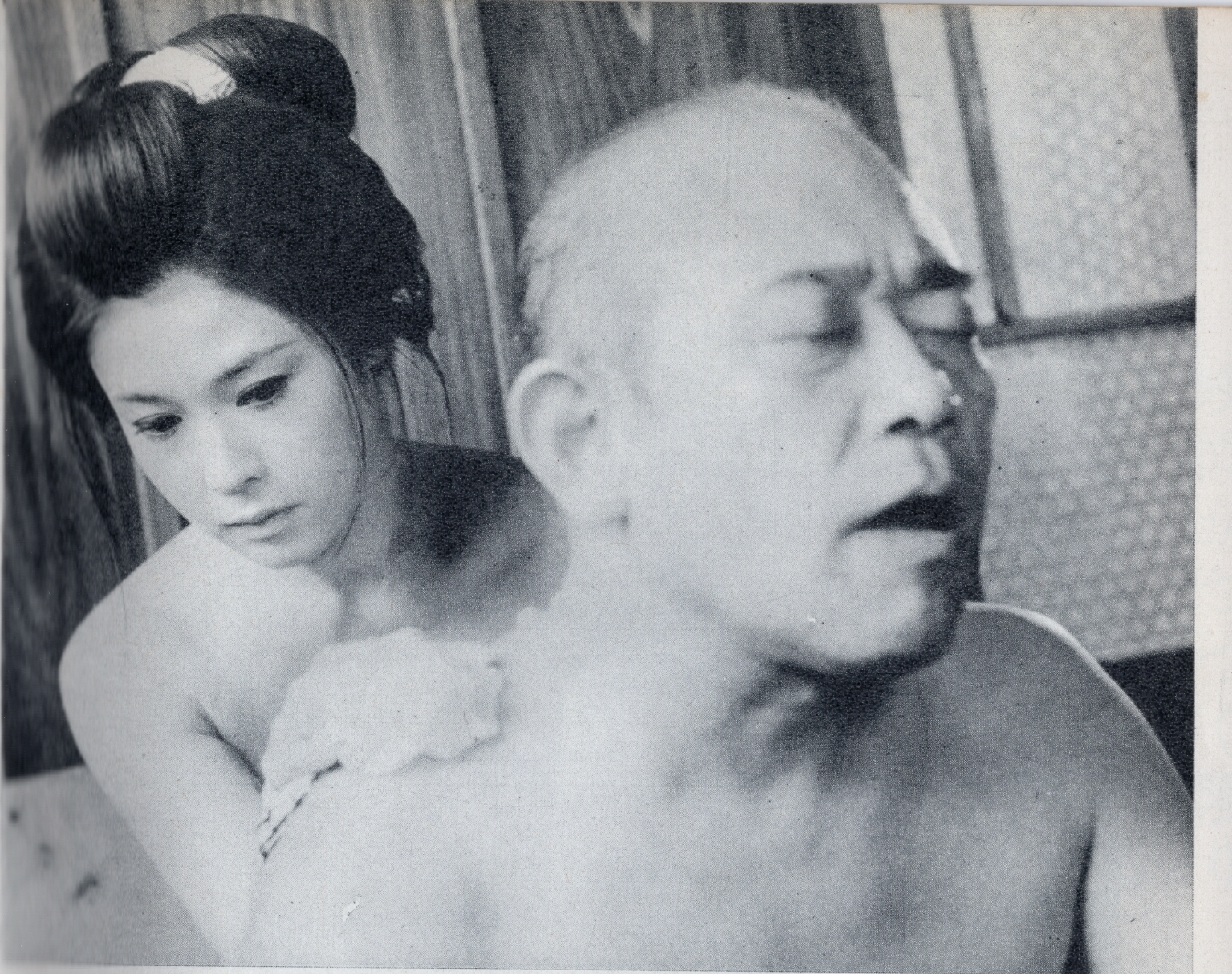
★

エロティシズムに固っくるしい理論めいたことはやめよう。スクリーンに写し出される女優の美しさ、その好みは各人によって違い、勝手に満足すればいい。その瞬間、すべてのことを忘れ、ストレスの解消になるもよし。生活をエンジョイする役割りとなるもいいではないか。われわれはもっとストレートに、女性の魅力と美しさを探りあて、楽しんでいい自由がある。



扇町京子（松竹）
「ちんころ海女っこ」より

★七月のスクリーン・エロティシズム——新作映画紹介——



日露戦争のころ中国地方の農村が舞台。貧しい一家の生計のため十七才で老人の妾になった女(若尾文子)が、その後、村の青年(田村高広)と結婚。やっと愛をつかむ。ところが夫が戦争に奪われる別離の辛さに耐えかねて、夫の両眼を五寸釘で刺し失明させる。誰にも渡したくないと願う純粋な女の愛を描こうというもの。若尾のベッドシーン、入浴(ふきかえ)場面がみもの。
監督　増村保造。

●清作の妻（大映）

若尾文子
田村高広
殿山泰司

•けものみち（東宝）

池部良・池内淳子

松本清張原作のエロティック・ミステリーの映画化。

病気の夫を焼き殺した旅館の女中（池内淳子）が、さまざまな男たちに弄ばれながら、自からも情欲に狂い殺される。池内が、池部良、小林桂樹と物凄いベッド、セクシーシーンを体当りでやってのける。そのお色気ぶりがみもの。

監督須川栄三。

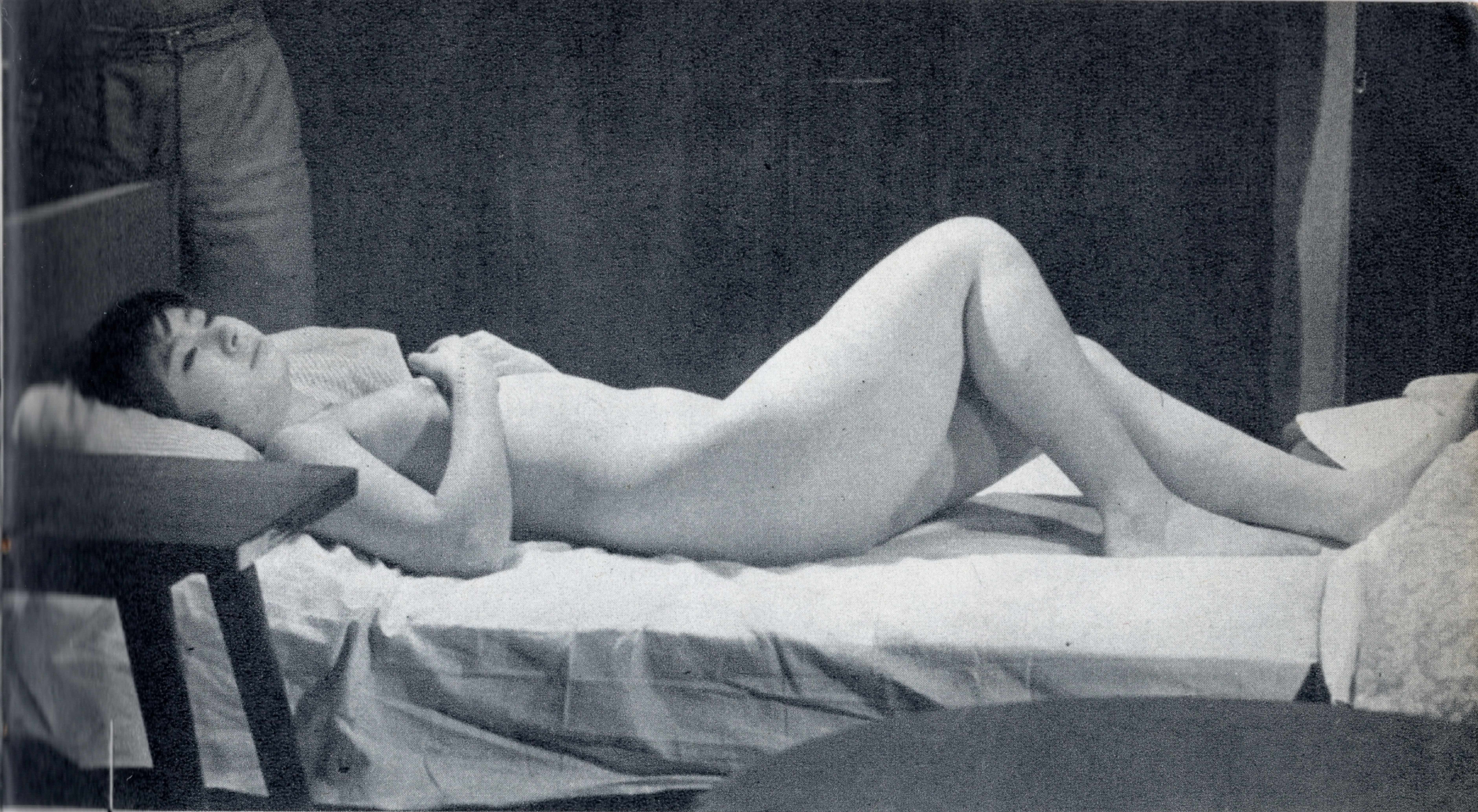
•命しらずのろくでなし

（日活）

宍戸錠・小浜奈々子

ろくでなしジョーこと宍戸錠のアクション。のみ屋組織をめぐって、宍戸がカッコよく、金もうけし、ケンカするというろくでなしシリーズ。日劇ミュージック・ホールのヌードダンサー小浜奈々子が、セクシーな肢体をみせれば、このところお色気で売ってきている弓恵子も肌もあらわに出演している。

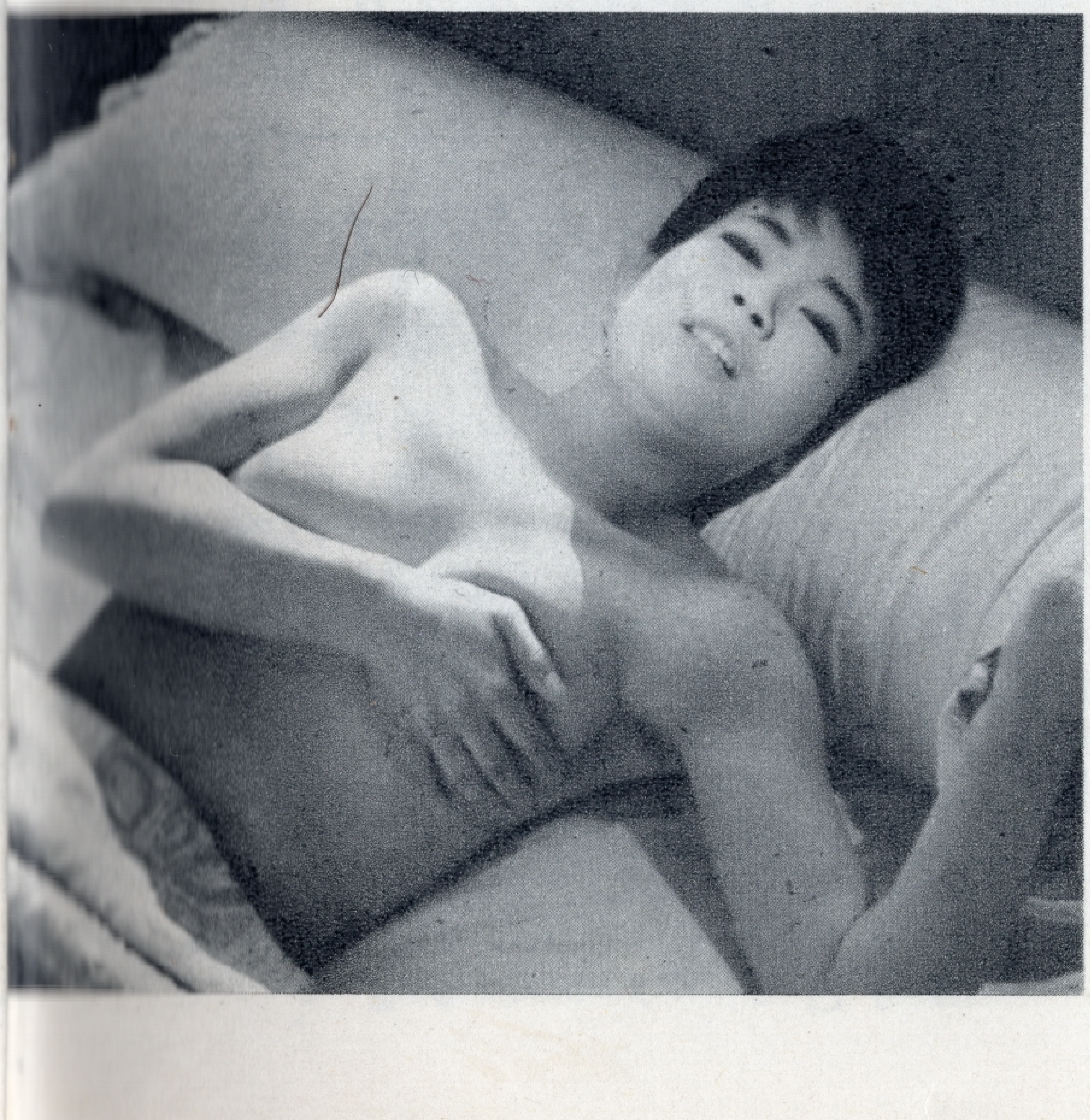
監督江崎実生。

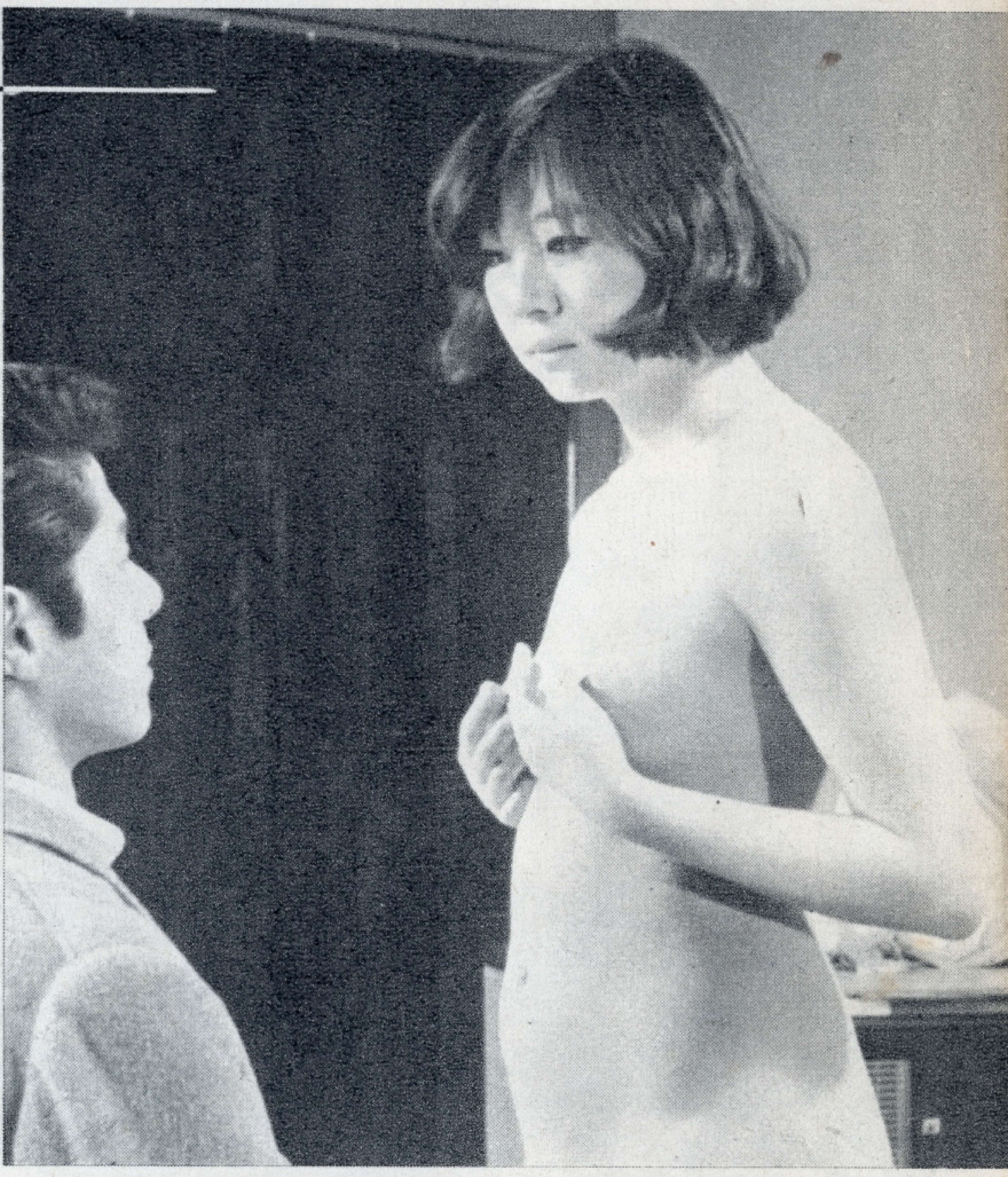


●黒い雪（日活）

花ノ本寿・紅千登世

「白日夢」で話題をまいた武智鉄二監督の第三作。映画館で少女をペッテングしたり、黒人と娼婦とのセックス、変態性欲、おばを輪姦したり全裸で基地のゲート前を走ったり。警視庁にワイセツだと捜索され、映倫が泣いた問題作。監督武智鉄二。

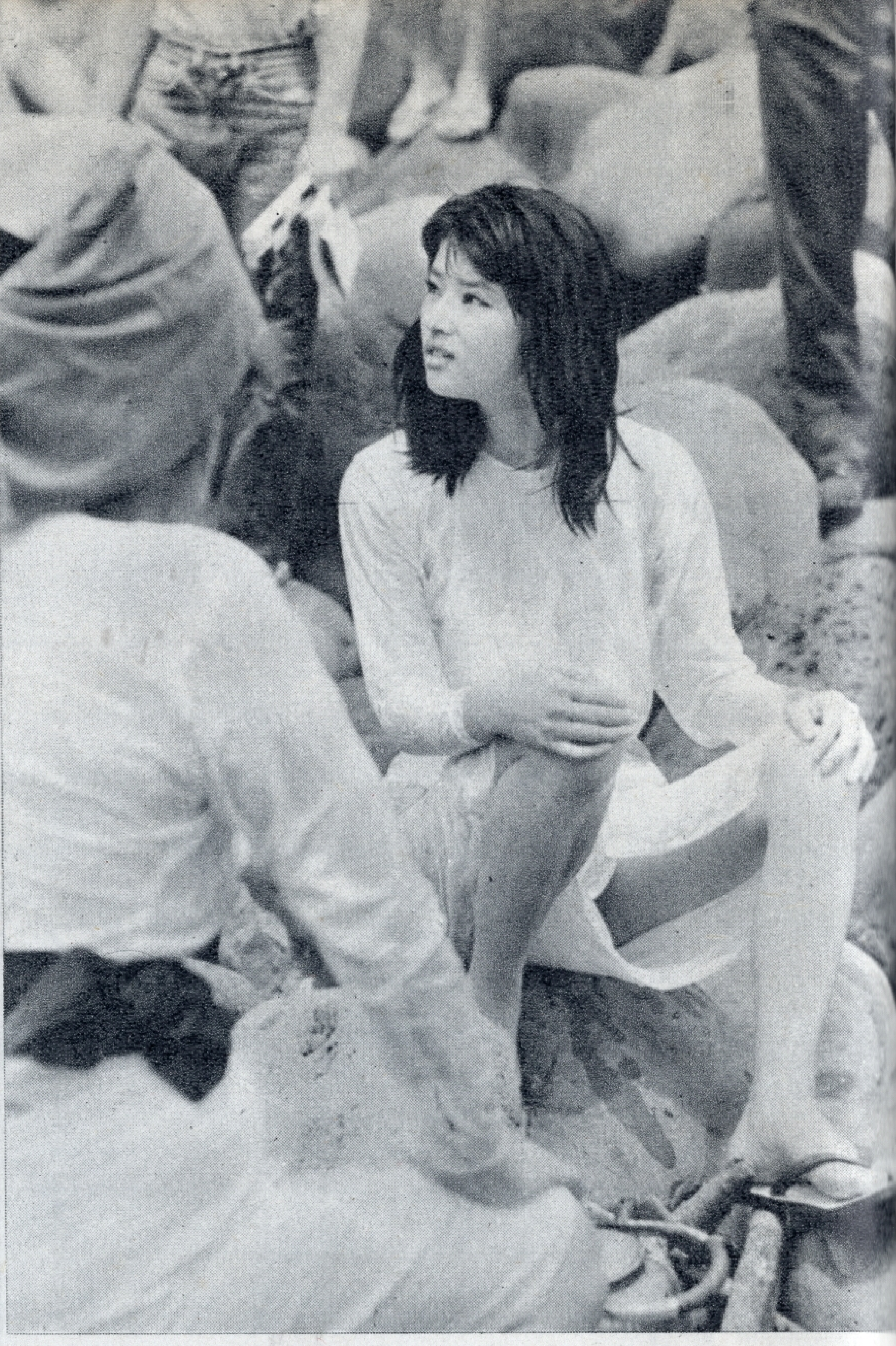




●処女喪失（日活）

藤江リカ

現代の未婚女性の性行動を描く。野川由美子、内田高子ら数人の女性が、かくバージンを失ったエピソードをみせる。撮影中岬瑛子が失踪し「女優喪失」した。監督井田探。



●ちんころ海女っこ

（松竹）

中村晃子・扇町京子

富永一郎のマンガ原作をもとに、健康・的で行動派で適当にエロチックな愉快な海女が現われる。松竹の看板スターにしようという中村晃子をセクシーな海女に仕立て、フンダンにお色気をみせる。海女の濡れた白い肌着の下のオッパイが、見どころでしような。

監督 前田陽一

●怪談せむし男

（東映）

西村晃・桑原幸子

戦時中、将校に女をうばわれ、牢で餓死した男爵の恨みにかかり、その別荘跡に住んだ人々がつぎつぎ命を失ってゆく怪奇映画。西村晃がせむしと男爵の二役、監督佐藤肇。

●好色森の石松（新東宝）柳家小せん・内田高子・月ひろみ・小川ミカ●

のみねえ、のみねえ寿司食いねえ、のご存知森の石森（柳家小せん）を、実はあの方が好きで好きで大好きな好色男、プレイボーイに仕立てた異外伝。次郎長の女房お蝶とできて、目を潰したり、都鳥親分の娘とゾッコンとなったりという奇抜な物語。

内田高子のお蝶と石松の小せんのベッドシーンは物凄い迫力。そのほかにもセックスシーンがふんだん。時代劇でこんなに、ベッドシーンが連続的にあるのも珍らしい。石松が、なぜ片眼になったかを逆説風に描いたところがミソ。監督大貫正義。

●いろ女

（新東宝）

内田高子

内田高子が、東北の温泉街の芸者で、柔道もできる女に扮している。

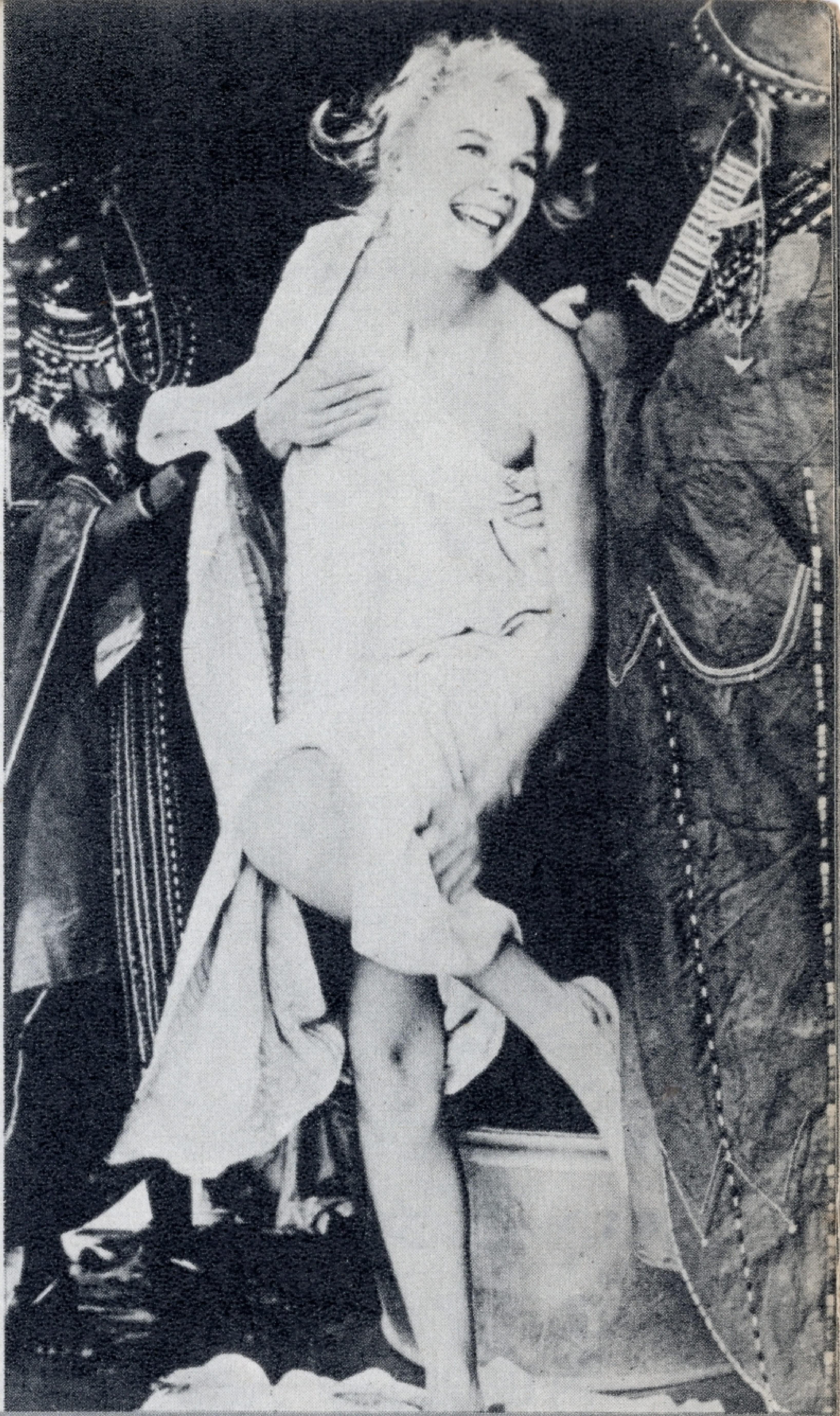
三味線をひき小唄もうたえば酔客にからまれ彼女の体を狙う男たちを手玉にとって、投げとばす。彼女の入浴シーンなど、色気もたっぷり。こんな女が一番弱いのが、純心で頼もしい男。湯けむり一ぱいのムードもある。

●好色森の石松

●ジャングル・モーゼ（ユナイト）

キャロル・ベイカー，ロバート・ミッチャム

ハリウッドで、ハダカになるスターといえば、目下のところキャロル・ベイカーの右にでる女優さんはまずいないだろう。その彼女がアフリカに飛んで、黒人相手にジャングルでまたまたハダカになるというのだから興味はつきない。何しろこれこそ白と黒のハダカ比べなのだから。



●濡れた本能（松竹）●

ロッサナ・ポデスタ

清純派で、売りだしたロッサナ・ポデスタも、いまやご覧のとうり堂々たるグラマーに成長。何しおうお色気たっぷりのイタリア女とはいえここまで豊かな肢体の持ち主に育とうとは驚きいったる次第。
お話は夫の大学の学生と通じる人妻の姿を描いているが、雨に濡れたヌードは最高の見所である。

● シーサイドの男（ワーナー）

ジョーイ・ヒーザートン，トロイ・ドナヒュー

突然現われた美青年と彼の話す怪奇な物語——だが娘は青年の底知れぬ魅力にひきずられていく。このサスペンスにとんだお話に登場するのが新星ジョーイ・ヒーザートン。第二のマリリン・モンローとの呼び声も高い。アメリカの若手No.1である。

● 欲　情（大映）

一人の性的変質者の、野獣のような行動を中心に、彼がその地域社会にもたらした悲惨な災害を、迫真非情なタッチで描いた恐るべきドラマ。全篇の½を主人公の暴行シーンでつづったこの映画はその内容のあまりの異常さと物すごさに、アメリカ各州で上映禁止相つぐという問題作。

セクシー女優を勤務評定する

▶内田高子

▼松井康子

いま一連の「ピンク映画」上映館はどこも満員である。サラリーマン、労働者と階層はさまざまだが、いずれもハダカ女優のセクシーなベッドシーン、入浴シーンなどに見惚れている。

ある週刊誌の編集者が「いま時代の先端を行く映画はエロダクション作品だ。なぜこの種の映画がウケているのか、社会的なその底流を探るには絶好のケースだ」といっている。お色気や、セクシーなものが売れる根源をこの編集者は注目したわけだ。

ある映画評論家は「抑圧されたセックスのはけ口を、こうした映画に求めている人は非常に多い。独立プロも彼らの心理をたくみにつかんで、つぎつぎと脱がせて、ハダカ演技、ベッドシーン演技の新手をあみ出している。人間がいかにセックスに多くの金を使っているかを考えてみると、この種の映画は、今後絶対になくならない」といっている。この見方はある真実を伝えている。

そうなると、ハダカ女優たちの功績もこれまた絶大ということになる。

つぎつぎと新人女優がスクリーンに登場して、さまざまなプロポーションをみせ、そして消えてゆくのもいる。なかにはエロダクションから五社の作品に堂々と進出している女優も数多い。いまや五社の女優もノホホンと構えてはいられないときだ。

そこで男ごころを泣かせる〝エロダクション・セクシー女優〟を勤務評定してみよう。

＊　＊

まずセクシー女優の姐ご的存在は**松井康子**。山本富士子の如く美人で、貫録十分。**牧和子**のもう一つの芸名を使っているが、どれか一本に絞ること。「妾」に出たからって、二号の芸名はまぎらわしい。もっと痩せるべし。

新東宝時代からセクシー女優でスクリーンを飾ってきたのが、**扇町京子**。その息の長さは評価されていい。松竹、大映とひっぱりダコ。演技に幅があったら申分なし。

新幹線の超特急なみのスピードアップぶりで、上昇気流にのっているのが**内田高子**。一ヵ月一本半の稼ぎぶり。「処女喪失」「黒い雪」「006は浮気の番号」など立てつづけ。まだまだ伸びる。「色と欲」「性宴」などで、豊満なお色

〈セクシー女優採点表〉

名前	出演作品	脱ぎっぷり	スタイル	演技力	将来性
松井康子	妾	8	6	9	8
扇町京子	続・妾	8	9	9	9
内田高子	好色森の石松	8	8	9	9
橘 桂子	鉄火芸者	8	7	7	7
香取環	色と欲	9	8	8	8
千草みどり	情事の履歴書	10	9	6	7
大須賀美春	裸虫	9	6	7	6
柏木優子	おんな	5	8	8	7
可能かづ子	ヒップで勝負	9	8	8	9
森 まこ	砂利の女	8	8	7	8
公 敦子	黒・白・黒	8	8	7	7
左京未知子	濡れた牝馬	8	9	8	7
渚ひろ子	やめてくれ	8	8	7	6
光岡早苗	肉体の開店	8	7	8	7
新高恵子	雪の涯て	9	8	8	7

気をおめにかけているのが、**香取環**。演技はキャリアがあるし、あまり肥らずにガンバルベシ。国映ただ一人の専属女優**橘桂子**は最近、彼女の原案になる「若い昼」を映画化した。もちろん主役。演技もこれから。根性と若さが魅力。

千草みどりは「情事の履歴書」で雪の中を全裸で走るショッキング演技をやって、有名になった。近ごろは東宝作品に進出しているが、歯をなおして、演技の基礎を学ぶことだ。

有望株を目されているのに「ヒップで勝負」や「壁の中の秘事」の**可能かづ子**がいる。フェイス、スタイル、演技力も注目されていい。かなりの線までゆく有望株。「肉体の開店」の**光岡早苗**はもと東映の女優。いつの間にかピンク映画の主役に転向してしまったが、やるからには割り切ること。

「雪の涯て」の**新高恵子**はなかなかの度胸があり、使い方次第で伸びる可能性がある。新藤孝衛監督はもっと彼女を育てていかが。「砂利の女」の**森まこ**は清純さと、根性で、これも成長株。

ほかにも日活時代の**佐京未知子**、若松孝二監督の常連、**公敦子**、「裸虫」の大須賀美春などがいるが、今後を見守りたい。

香取環　可能かづ子　柏木優子　扇町京子

●創刊によせて●

若尾文子（女優）

映画エロティシズムの紹介は、なぜもっと美しく、楽しいものにしないのでしょうか。私など、エロティシズムの最先端にいるような女優ですから、よけい、神経も使います。こんど「成人映画」が、シャレたセンスで紙面を飾るそうですけど、ぜひいい意味で、大人を楽しませてくれる、アカぬけのした雑誌にして、ほしいと思います。

藤原いさむ（内外タイムス文化部長）

清純派女優よりお色気女優のほうが、よっぽどいい。もちろん映画だって、泣いて別れて、また泣いて……なんてのは、ぼくは最初からみる気がしない。

ボクは男だから女が好きだし、女のハダカをみりゃあ、「いいなあ」と思う。成人映画けっこう。また、その集大成版である「成人映画」誌の創刊には、モロテをあげて賛成する。願わくば、モロテだけでなく、もう一つのボクの〝テ〟が興奮してクビをあげたくなるよう、すばらしいものを期待している。

浜　美枝（女優）

女性は男性がいなくちゃ生きていけないし、男性もまた女性がいなければ生きていけないのです。女性がより美しくチャームであることは、より男性を幸せにすることではないでしょうか。そのためには、女性の魅力はなんであるか——その辺の事情を「成人映画」が懇切ていねいに、紹介してくれるそうですが、女性陣にとっても、大いに興味深く参考になるでしょう。「成人映画」よ！がんばってえー。

花村禎次郎（映画評論家）

「成人映画」という雑誌が発行される。まことにけっこう。

この世の中に、夜と昼があるように、映画の場合も、一般と成人向けがあるのだから、成人を対象とした、小味な雑誌ができて、大いに成人向き映画を育成していくことには意義がある。なにも成人指定の映画が、肩身のせまい思いをすることもないし、大いに胸をはって登場してほしい。「成人映画」誌の今後の発展を祈る。

緑　魔子（女優）

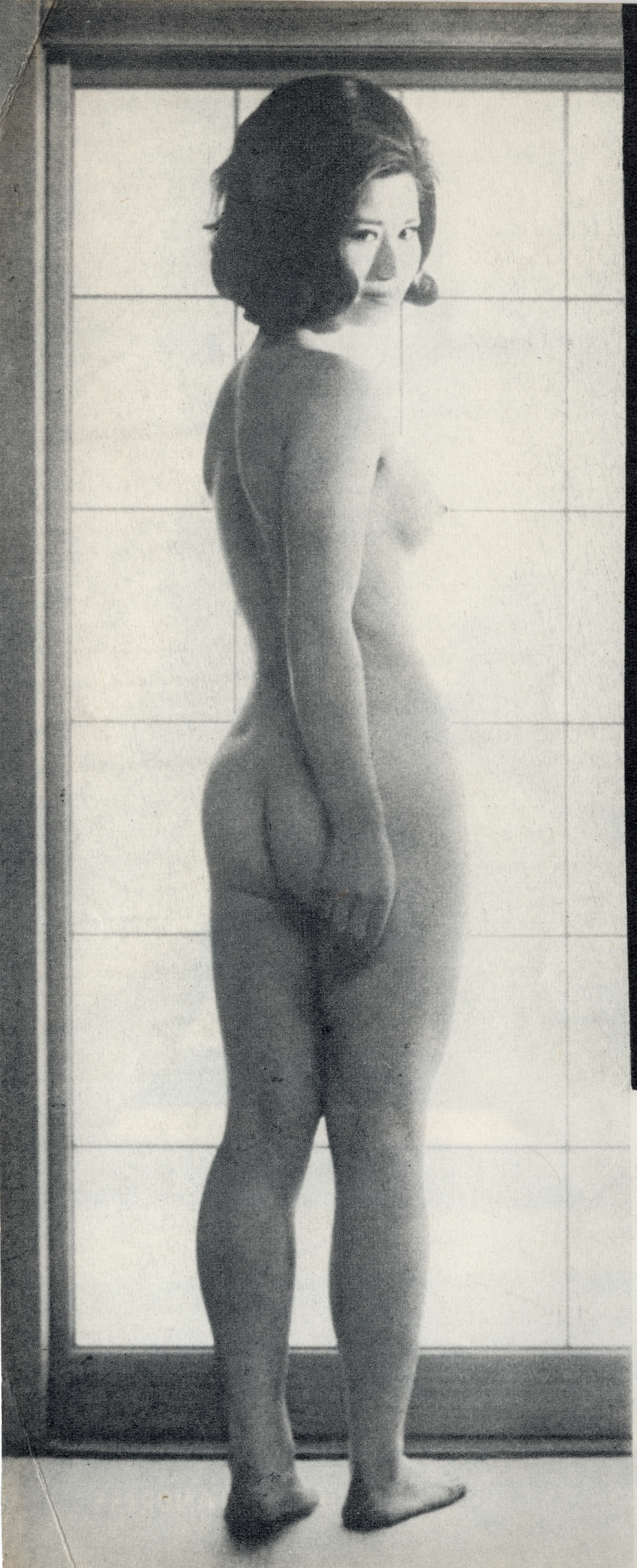
人間の隠された面にフタをすることで、本当の人間観察はできないと思うんです。映画でベッドシーンをやったから、すぐエロ——ときめつけるのはおかしいわ。そういう非難をする人は、家に帰ったらなにをしているの？と反問したいわ。お体裁ぶっている人は大キライ。そんな体裁野郎に強烈な〝パンチ〟を一発かましてやる役目があると思うの。

田宮二郎（男優）

クールガイとか、プレイボーイとかいわれますが、結婚したらプレイボーイは返上しなきゃあならないようですね。

「成人映画」は映画のプレイボーイが狙いだそうだから、せいぜい「成人映画」をみて、お色気シーンを楽しもう。「家内安全」というものです。

♥ 内田高子



彼女とはじめて会ったのは、この三月「肉」(国映・監督向井寛)のロケさき、伊東のホテルであった。その体当り演技と、脱ぎっぷりの度胸のよさには感心した。この女優はことしのホープになる！と確信した。

きよ年ホープとなり、ブルーリボン新人賞をもらった緑魔子に早くから注目したと同様、ボクの目に狂いがなかったと思っている。いま一カ月一本の割りで、日活の作品に出演しているが彼女の魅力はなんといっても庶民的なセクシーさである。千葉の浜っ子らしくてそのサバサバした気質はさわやかで、話をしていても気分がいい。

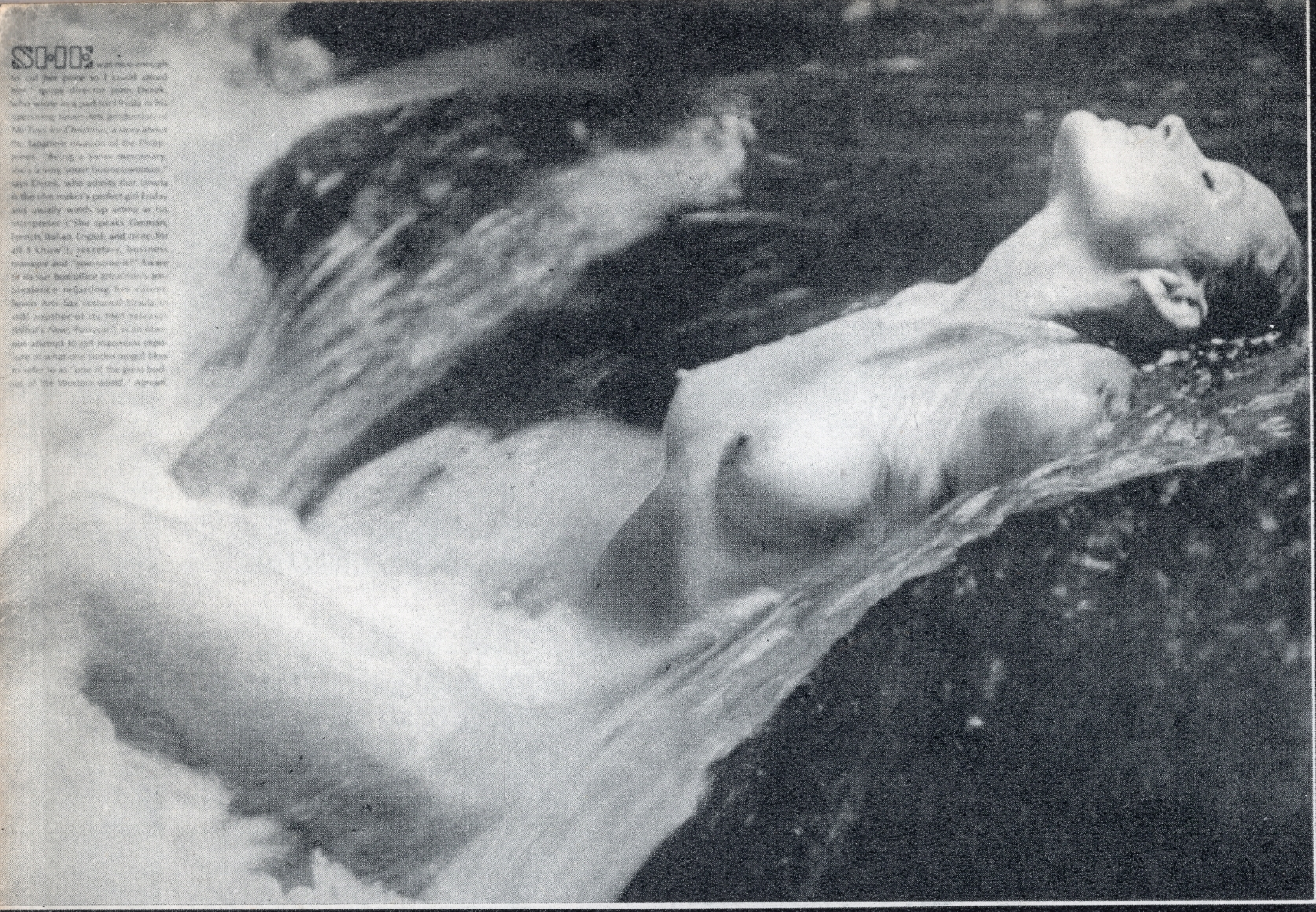
現代劇もいいけど、近作の「好色森の石松」(新東宝)では、マゲと着物スタイルがピッタリで、演技の点も及第点だった。

あるプロデューサーが、「日本のソフィア・ローレンってところだね」といったが、彼女からうける生活感やバイタリティにはいかにもローレンに似たニオイがありそう。こんごもパンチのきいた健康なエロスを発散させてほしい。

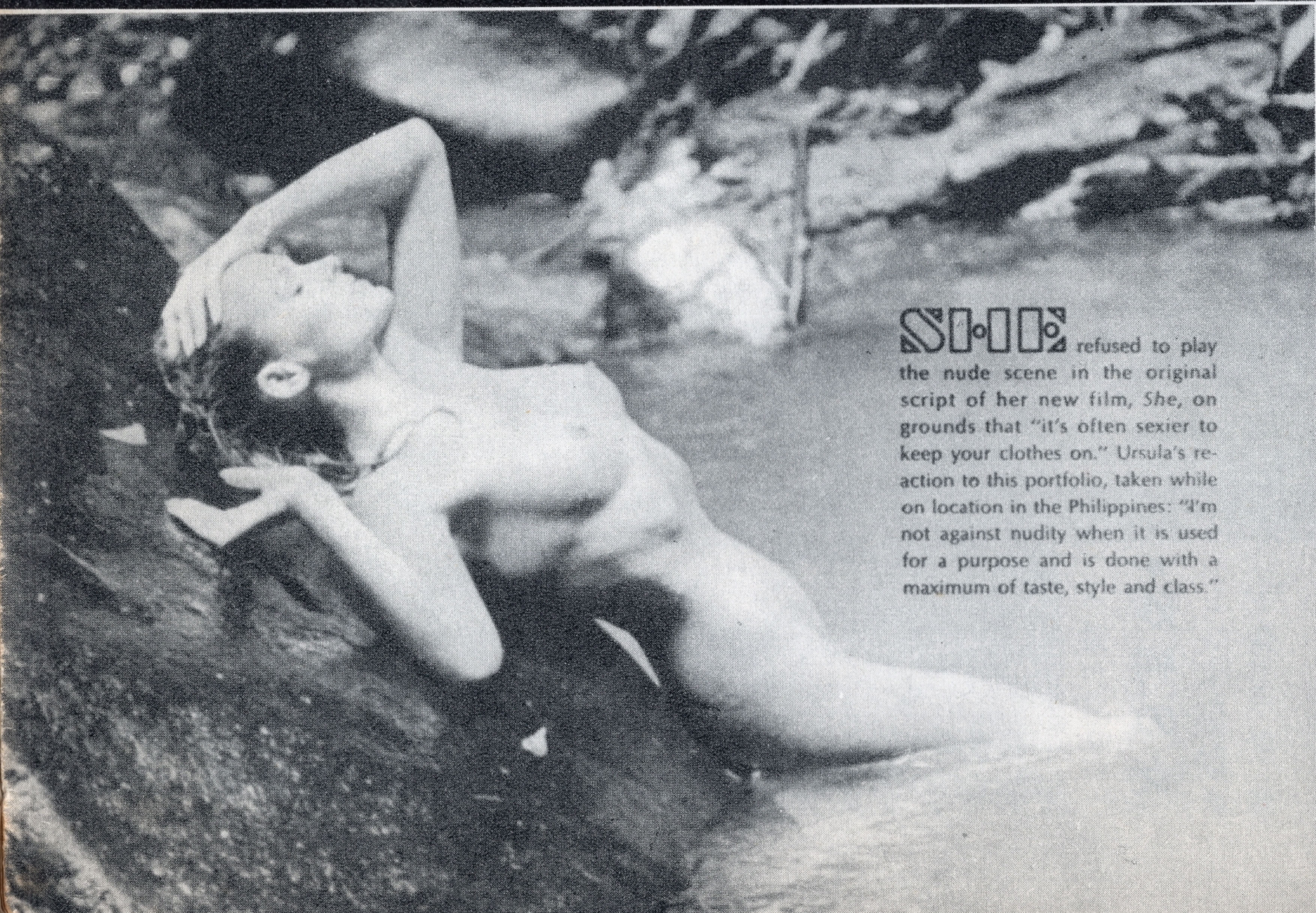
カメラ・文／村井実

from "PLAYBOY", JUNE, 1965 ◆URSULA ANDRESS

「プレイボーイ・1965年6月号」より　◆アーシュラ・アンドレス

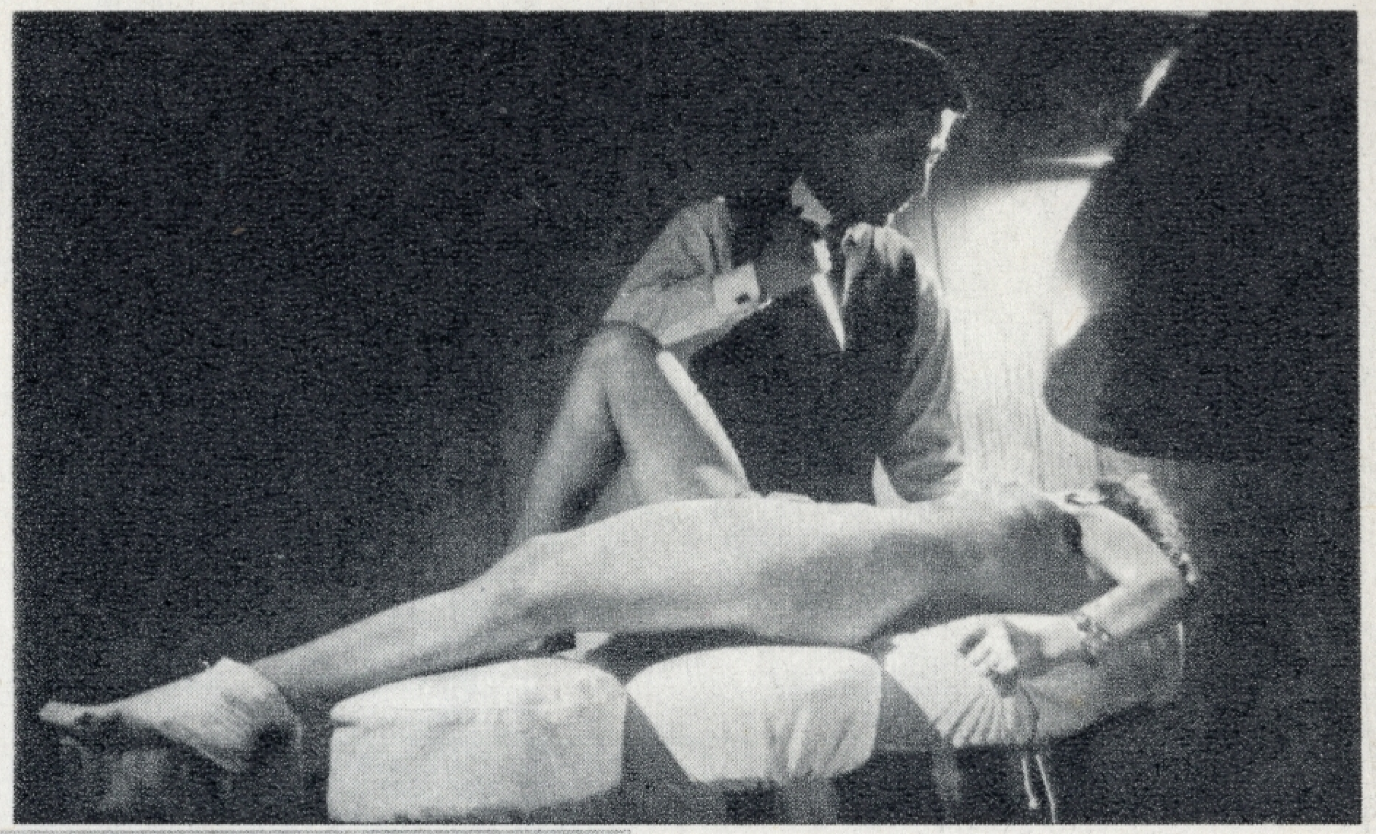


新作「炎の女」（原題・SHE）で活躍する アーシュラ・アンドレスのヌード！



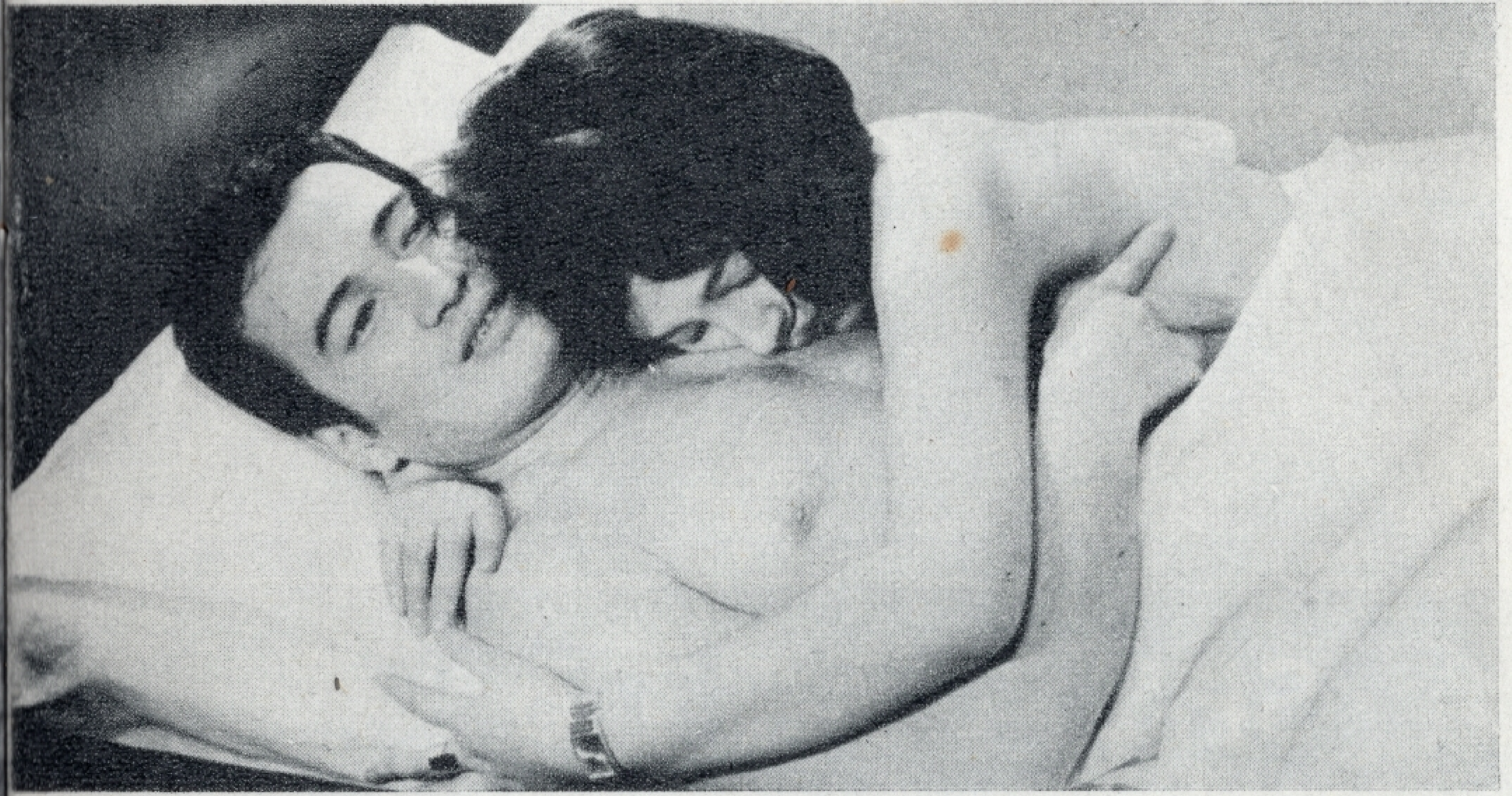
SHE refused to play the nude scene in the original script of her new film, *She*, on grounds that "it's often sexier to keep your clothes on." Ursula's reaction to this portfolio, taken while on location in the Philippines: "I'm not against nudity when it is used for a purpose and is done with a maximum of taste, style and class."

★七月のスクリーン・エロティシズム
—新作映画紹介—



・冒瀆の罠（国映）

藤田　功
森　まこ
加山リサ



ジェームズ・ボンドの「007」が大ヒットというので、日本版の「007」というのが、この作品。歌手の藤田功が、日本版ボンド役。十数人の女の子をいただき麻薬団と闘う。エロとスリルの活劇篇。監督若松孝二。

・砂利の女（国映）

森　まこ

砂利採取場で働く砂利トラ運転手と、人夫達の争いと男の欲望を描いたもの。飯場の中で、賄婦（西朱美）が働いている。その姪の玲子（森まこ）が働きに来て男たちの餌食になる。小人男が玲子を襲い、重油まみれ砂利まみれで、抵抗するシーンはみもの。ラストに人間バーベキューの心中あり、砂利場での迫力ある暴行場面など男の体臭がムンムン。新人、森まこが全身傷だらけで熱演している。

監督　向井　寛

●つまみ喰い

（日本シネマ）
扇町京子

東北のあるダム建設の飯場に都会から流れこんできた男女の前科者（下村和男、扇町京子）を中心に、工事現場の人間のみにくさ、欲望を描く。都会女の扇町が、飯場の男たちに狙われ、欲望の嵐に襲われる。監督山本晋也。

いまでもへんぴな部落には夜這いという解放的な性の風習が残っている。
抑圧された欲望の吐け口を求める漁村の若者たちと、誘惑の中でもがく女の因習的な性の悲劇を描いている。香取環が豊満な肉体をスクリーン一ぱいに発散する。監督松原次郎。

●いろ盗人

（関東ムービー）
香取環

●ヒップで勝負（新幸プロ）

橘桂子・可能かづ子

そそっかしい旅館の女中が、部屋の名札を間違えてかけたばっかりに、三組の新婚夫婦がお互いに相手を間違えて一夜を過してしまうという、おいろけ喜劇。
橘桂子、可能かづ子らがベッドと入浴シーンで競艶、一番カッコいいヒップは誰でしょう。
監督関孝二。

エロティシズム・モノローグ

●「黒い雪」の内田高子

愛は匂いである

花村禎次郎

　古くから「女は匂いである」と言われて来た。これはまた「愛は匂いである」と置きかえても言われる。

　グスターフ・エーガーは「性欲は匂いである」と述べている。

　映画の題名でも日本ヘラルドが配給した「エヴァの匂い」という映画があったが、この写真など、成人映画としても優秀な作品だった。

　最近の映画で女体が画面から匂うような映画と言えば、日活が配給した武智監督の「黒い雪」をあげることが出来る。

　映画が始まると内田高子の全裸に黒人がおおいかぶさっている。

　黒い肌と白い肌、カメラは高子の足先から左へパンして次第に太腿へ、腰へと這い上って行く、乳房を押えた手のひらをカメラ・レンズがとらえて、さらに顔にまで行くと高子は手を高く差し上げる。

　カメラは腕の付根にフィックスする。そこには黒々と叢が茂っているのだ。

　キツネを指先で作り、天井にキツネの首が写る。

　このカットには匂いがある。日本映画には誠に少くない匂いがあるのだ。

　まわりのセットは安物のパン助宿でも、基地の飛行機が、うるさい轟音を空に響かせようとも、この映画には「性欲は匂いである」と述べたエーガーの言葉が如実ににじみ出ているのだ。

本当のリアリティ

野鈴　章

「〝いろ〟なんて映画には、リアリティがないですよ」

黒い蝶タイの苦がみばしったバーテンが、おれに一席ぶちゃがった。〝いろ〟（東映）は新宿が舞台、梅宮辰夫のバーテンが、オールド・ミスや田舎娘を次々にだまして、ゼニを巻き上げる話だ。梅宮のバーテンは売春あっせんの疑いで、警察につかまり、地廻りにぶんなぐられ、ラストは女に腹を刺される。

「あたしなんざ、サツダネになるこたあ、こんりんざいーないね。まして、与太公相手の立ち廻りなんざ、最低ですよ」

こういう蝶タイは女客でもションベン臭い小娘や、ガツガツ飢えているオールド・ミスなぞは、目もくれない。彼の狙うのは、三十前後の〝人妻〟にかぎるという。

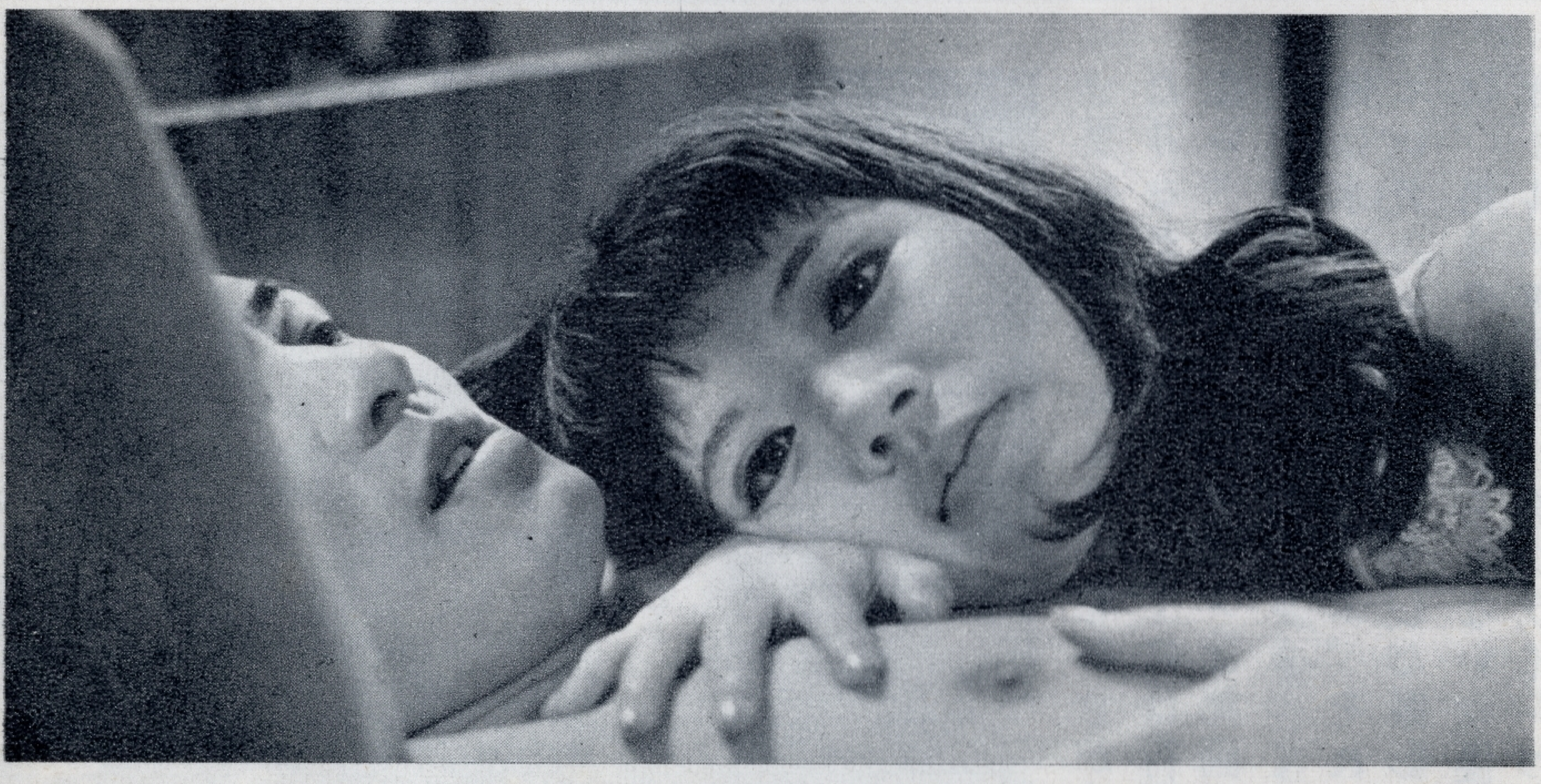
「ヘソクリをたっぷりもってて、毎晩の宴会疲れで、背中を向けて寝る男のカアちゃん、こいつは絶対ですよ」

彼の人妻ハントは、夜の店だけではない。真昼のデパート、子供連れの女でも「奥さん、お茶飲みませんか」とやる。断られてもともと、十人のうち三人は引っかかる。引っかかったら、午後四時—六時まで、新宿コマ劇場裏の旅館を利用する。

「テクニックは最高、ほとんどが欲求不満、終ったらホテル代とあたしのギャラと置いて、車でさっと帰っちゃう。後くされはないしヤバイことはちっともない」

こいつの友だちで、この手で小遣いをせびり、バーを一軒持ったやつがいるそうだ。彼の忠告がふるってる。

「インテリ亭主にかぎって、あの方の回数が少ない人だな。あたしにいわせれば、月に二回は義務だと思って、やってやんなよ。ただし二日続けること、二日連投すりゃたいがいの女房は満足するよ」



●「いろ」の緑魔子と梅宮辰夫

ロケ・ルポルタージュ「冒瀆の罠」（国映）

ショーン・コネリーの「007」が爆発的なヒットをつづけているので、そんなら手っとり早くその日本版を——とクランク・インしたのが、国映の「冒瀆の罠」。〝指令一〇三シリーズ〟というサブタイトルがつき、監督はいまやエロダクションの新鋭である若松孝二監督。ボンド役には歌手の藤田功が抜てき主演、エロとスリルとサスペンスと欲ばったドラマ構成。その熱海ロケをルポしてみた。

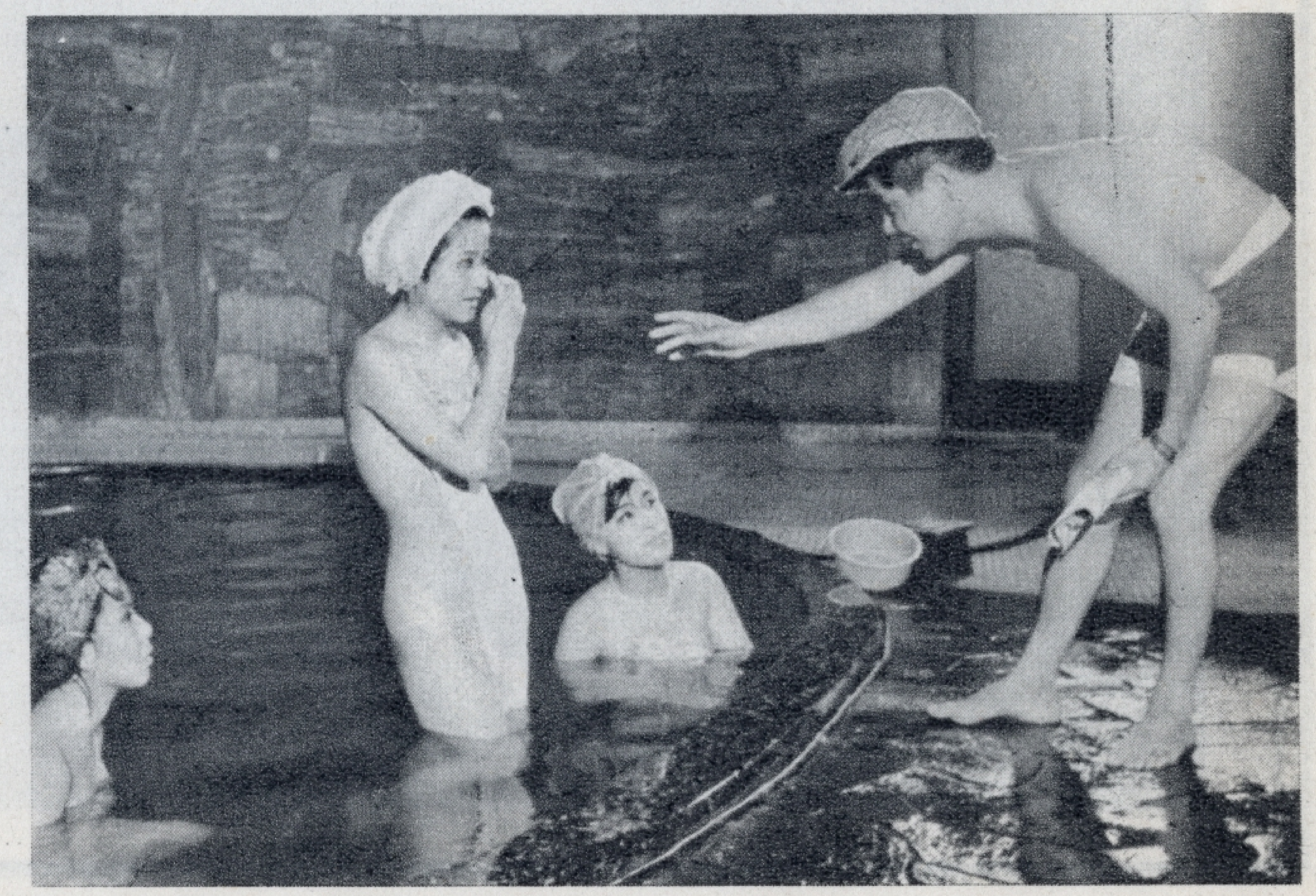
熱海駅での撮影・右から二人目藤田功

熱海の大浴場で……

熱海城の大浴場で女優三人、それに藤田ボンド氏が入浴するシーンがあるという。もちろん混浴はご法度だから、藤田がハナ歌でご気嫌でお湯にひたっているところへ、女優三人が知らずにキャアキャアいって入ってくる。

「みちゃいましたよ」とタオル一枚で逃げる藤田に「イヤーン、バカ、Hね」と女優たちがお湯をかける。浴場に入ってきた女優三人はタオル一枚をたくみに使って乳房ともう一つの大切な個所を隠す。

「さあ、入って、ここまできて、はしゃいでー」という若松監督の指図にも、そこは数人の男性スタッフの前で照れたり、恥かしがったりなかなかストレートには行かない。こんな入浴シーンは邦画五社の撮影の場合なら、きまって女優は水着を着用におよぶ。それがエロダクションのこうした撮影では、あまり名の知られない女優がオールハダカ、バタフライ一つつけないのだから勇敢なのか、割り



大浴場で演出する若松監督

切りがいいのか、監督の脱がせっぷりがいいのか。ゴリッパというほかはない。

フロに水着は無用……

若松監督にいわせると「おフロに入るのに水着なんてトンデモない。こちらは入浴シーンも一つの重要な見せ場だし、まやかしはやりたくないですよ。ハダカがイヤだなんていうんなら女優やめるんですな。根性のない奴はどこに行っても通用しません」なかなかの意気ごみであった。そして胸が厚くなかなか男性的な魅力の藤田クンは、お湯にユダって、懸命なところをみせていた。

撮影が終ったのは十二時を回っていた。また早朝七時出発という。ところで、エロダクションのブームと、不況を知らぬ原因はどうやら〝映画を愛している〟スタッフたちのファイトに支えられているーと感じた。作らせる資本家も、その辺の情熱を、評価してギャラをもっと上積みしてやるべきだと思った。（熱海にて・川島信子）

ピンク映画みたまま

「好色森の石松」
（新東宝製作）

お色気映画では珍しい時代劇、それに主演が「カァちゃん」で売り出している落語家の柳家小せんと、いまや完全にネグリジェを脱ぎすてた内田高子。

これまでの石松のカラーを脱ぎすてて、逆説的に石松を描いたのもおもしろい。昼には弱いが夜（女？）には強い石松（小せん）が、次郎長の女房お蝶（内田）をいただき、親分に指を詰めろと責められる。しかしその指こそは女をよろこばせる大事な道具。やむなく自分の目をドスで突いてしまう。片目になっても〝色ごと〟は、相変わらずさかんだ。

内田高子とのベッドシーンや、風呂場で女の子をモノにするシーンなどは、これがとぼけた味の小せんかと驚く。大貫正義監督の演出は全体に落語調にひたりきってしまい、ワンテンポずれた感じ。

「浮世絵の女」
（紫プロ製作・国映配給）

老人画家（林寛）とその妻（牧和子）の交情を描いている。林寛といえば「明治天皇と日露大戦争」で乃木将軍を演じた俳優。こんどは浮世絵画家になって、妾のセックスシーンを絵にするという異常な画家。監督東史郎は大映のT監督のペンネーム。テンポが老画家の如く老化し、盛り上りがない。現代ではなく浮世？時代的なムード作品。

ボリューム豊かな牧和子

「砂利の女」
（東京芸術プロ製作・国映配給）

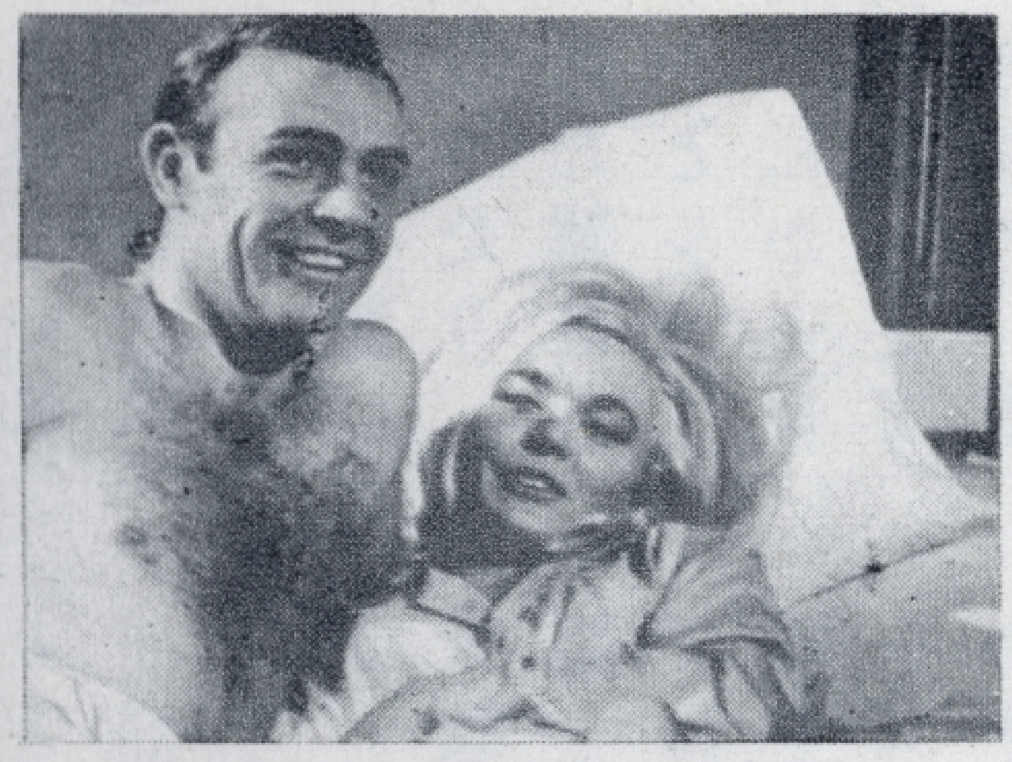
砂利トラ運ちゃんと砂利採取場飯場のマカナイ女とのセックスが、砂利と砂のザラザラした感触で描かれる。しかしなんでこうも人間のむき出しな本能ばかりを暗く、汚く扱わねばならないのか。ユーモラスな面がなく、男を淫獣化して描いているから悲壮感だけで息苦しい。向井寛監督は「肉」につぐ二作目。シャープなカメラワークがこの作品を救っている。新人、森まこはまあまあ。（００ゼロ）

その時マバタキしないで…

鈴木和夫

★プレイボーイの最新号にアーシュラ・アンドレスのカラー・ヌードが十二ページ特集されている。アーシュラはいまはすっかりカスんだが、アクションスター、ジョン・テレク夫人で「よくもまあ、亭主がOKした」と感心したが、なんとその写真の撮影者はテレク自身で、この女房のヌード写真を彼は、プレイボーイ誌に一万五千ドル、さる映画会社に一万ドルで売ったそうだ。うつす方もうつす方だがうつされる方も、うつされる方だ。

★今をときめく、007ショーン・コネリーが、しがないその他大勢の役者だったころ、彼は「虎の行動」というい ともあやしげな映画に出て、主演のマルチーヌ・キャロルの衣装をはぐ悪漢役をつとめた。その時、キャロルがいったそうだ。「アンタっていまに、女の子にもてて、もててしようがない役がもらえるわよ」。それから八年経った。予言は的中した。マルチーヌ・キャロルという女優は八年たって忘れられた。


ショーン・コネリー(左)

★忘れられたといっても、死んでしまったワケではない。さすがに成人向け女優第一号ともいうべき大アネゴ、妻である自分を十分に生かしきれない—という理由で、夫のクリスチャン・ジャック監督に三下り半をつきつけ、脱ぐことで貯めた数億ドルの札束で、パリにナイト・クラブをおっ立て、そこの経営者におさまった。そして彼女はいま映画のプロデューサーをも兼ねているという。作る映画はすべて教育映画だという。女はわからんね。

★ソフィア・ローレンとジナ・ロロブリジダを比較した場合、そのバストの大きさではソフィアの方が圧倒的に大きいというのは、世界の定説になっている。そのソフィアがたった一回だけ、その巨大なバストを〝見せてしまった〟映画がある。それも倫理規定のヤカましいアメリカ映画「イルカに乗った少年」というレッキとした一般向け映画でだから、ハズミというのはおそろしい。スジを忘れた人もそのことだけは多分忘れまい。

★ラッシュを見て、アリアリと写ったおのがバストに「あのカットはとり直してちょうだい」とソフィアは叫んだそうだが、プロデューサーはガンとして応じなかったという。おかげで、この映画は、アメリカで大ヒットした。—というニュースを読んで、日本の映画館へかけつけたが、ロードショウの時はたしかにあったハズのそのカットが、見当らなかった。「チキショウやりやがったな」と思った人も多かったろう。

ソフィア・ローレン

★

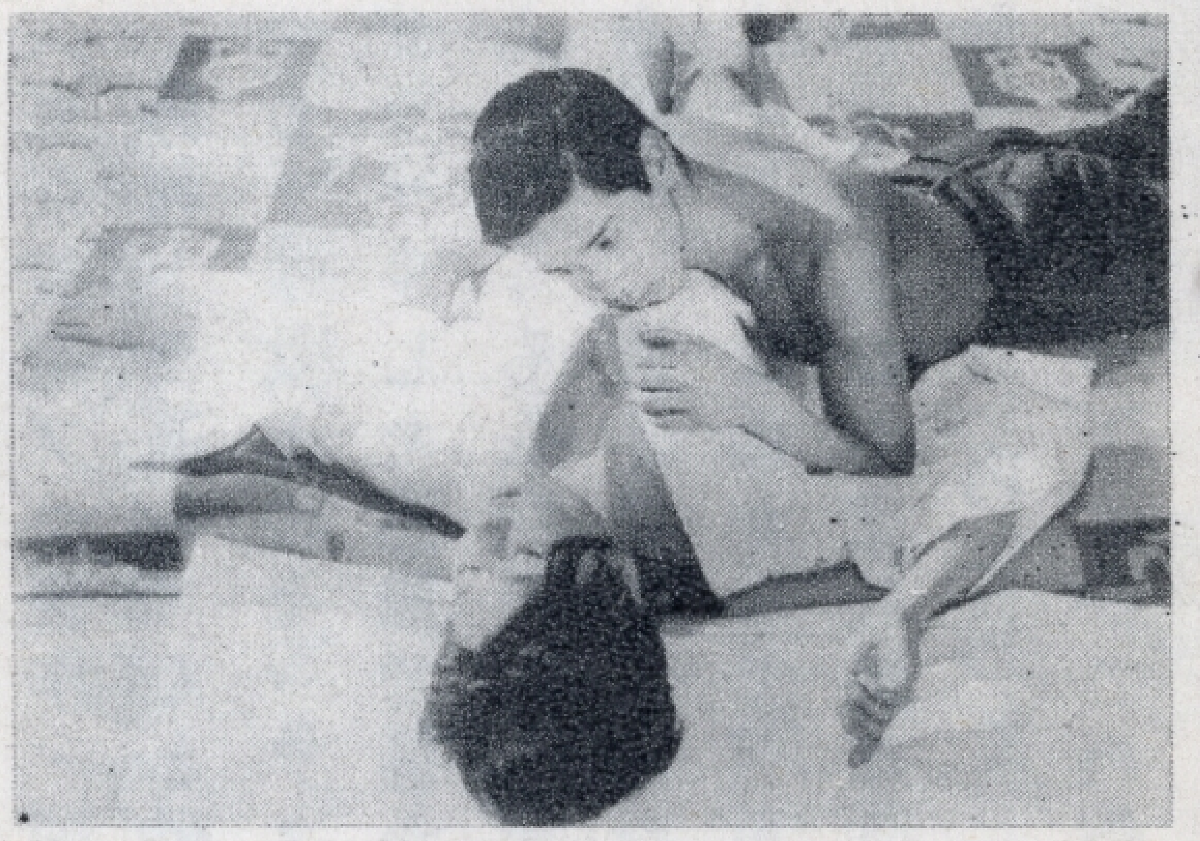
〝抵抗を感ずる題名がヒットする」というのが、国映の田坂宣伝部長。「妾」があるジャーナリストから、「抵抗しちゃうな」といわれ、「そこがいいんだよ」。いざ封切ってみたら、国映最大のヒット。だが「情事の履歴書」は「妾」を上回るヒット中。これはピンク映画の代表的？センスのある題名じゃないですか。

★

その題名で、いかにもピンク映画ならでは、というオハナシ。仮題「黒の弾痕」（国映）に電話がかかって、「黒のダンコンって〝男根〟ですか？」。これにはさすがの国映さんもギャフン。

★

情事の履歴書



肉体の開店

東映では緑魔子主演の、「ひも」がヒットしたので、「いろ」を作り、つづいて「だに」をクランク・インした。さらに「すけ」などやくざの隠語をそのまま題名にした映画を作るそう。エロダクション顔まけでござんす。

★

「肉」の第一話で、内田高子が入浴するシーンがある。そのホンの一秒くらいのカットで、彼女のブラック地帯がみえる。「みえなかったよ」「いやボクはそこだけ、まばたきしないでみたよ」とガヤガヤ。確認したいムキは、映画館へ急げ。

★

葵映画が「肉体の開店」を映倫審査無視で上映、このため〝以後審査はしない！〟と拒否されて、大あわて。業界の汚点として問題となっていた。ところが葵映画は、有馬猛監督を営業畑に配転させ、フィルムは映倫に預ける、などの条件を出して問題解決。映倫の怒りもとけて、次回作「激情のハイウエイ」の審査もOK。それにしても葵映画の損害は五百万円ナリ。やっぱりルールはまもろうぜ！

★

結婚した藤由紀子の配偶者と、大島渚監督の配偶者が、猛烈なキスをやった。それぞれの女房と亭主が怒るゾォーッといっても、映画の演技でのこと。ご存知田宮二郎と小山明子が「復讐の牙」（大映）でコッテリやりました。「トウチャンゴメンナサイ」「カアチャンユルセヨ」——わかる、わかる。ユルサレテ……。

★

武智プロの「黒い雪」のカット・フィルムその他が警察に押収された。では上映作品はおとなしいシーンだけか——いやいやそれはどうかな？

★

復讐の牙

「成人映画」友の会へのお誘い!!

あなたも友の会にお入りになりませんか。今日からあなたもプレイボーイの仲間入り。友の会ご入会の方にはいろいろな特典を用意してあります。

■一年分予約の方のみ年3回特別試写招待。

■スターとの交歓会。ほか……

■ご入会になるには下記の入会申込用紙に入会金百円と会費をそえて、東京都新宿区市ヶ谷台町8　アワノビル内　現代工房「成人映画」友の会までお送り下さい。

入会申込書

氏名	（　　才）
住所	
職業	
会費	半年分（〒共）¥　600
	一年分（〒共）¥1,000

編集後記

★「平凡パンチ」（6月14日号）に「成人映画」予告版の紹介をしていただいた。その反響が意外に大きく、うれしい反面その期待にそむいてはと責任重大です。

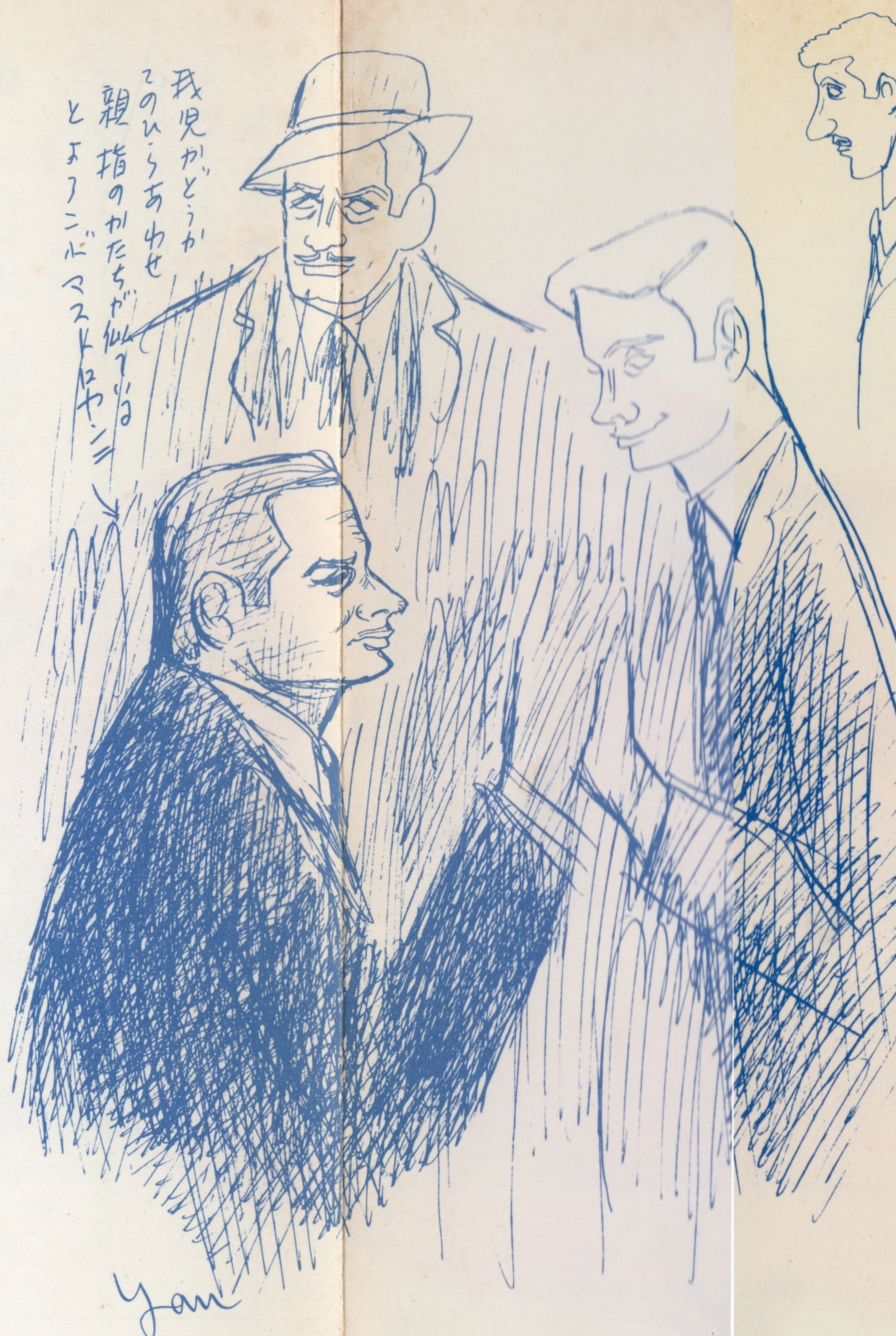
いままでに出たお色気雑誌の中には、発禁になったり、不良図書に指定された雑誌も多かった。私はもっとシャープに、美しく、女の私から見たエロティシズムをとらえてゆきたいと思う。今後の「成人映画」を可愛がって下さい。（K）

★映画女優のセクシーなハダカと、アメリカのプレイボーイ誌の楽しさをミックスしたグラビア雑誌を出そう―これが、われわれのユメだった。大版に逆行してB6版の小型誌というのも手ごろなニクサではないだろうか。ウンと冒険をやって、現代のエロティシズム・ジャーナルの新風をめざしたい。ジャンジャン注文なりを寄せてほしい。（X）

★〝エロ・グロ〟という言葉がある。だが、これを同位のものとするのはおかしいと思う。なぜなら、エロにはエロティシズムという主義主張があるのに、グロにはグロテスクという形容詞しかない。ここにエロとグロの大きな差がある。またエロには〝美〟の探求という楽しさがあり、それが一番エロティシズムに取りくむ楽しさなのだ。（E）

●月刊「成人映画」創刊7月号　昭和40年7月1日発行　☆本誌毎月1回1日発行　定価 100円　■編集兼発行人／川島信子　発行所／東京都新宿区市ヶ谷台町8　アワノビル内　現代工房　電話 (353) 2325

緑 魔子



ボクのシネ散歩

「あゝ結婚」　やなせ・たかし

「ああ、結婚」ときましたね。うまいね、この邦訳題名は、中には「ああああ！結婚」とすりゃもっとよかったといった人もあるが、これは中年の既婚者でありました。男はみんなあるところまでいくと、「ああ！結婚」と思うんだなァ。ボクだって共感してつい笑ってしまったのは不覚でしたよ。

ところで、この映画の場合、「ああ！結婚」といっておるのは女主人公のソフィア・ローレンのほうなので、結婚のためのひたむきな努力をうまずたゆまず続けて、ついにその栄冠をかくとするという血と涙の物語なのだなァ。そのタフでバイタリティにあふれていることは、イタリー魂というが、現在やむなくコールガールをしている女性の方にも必見の名画であります。娼婦稼業はしていても、実に純愛ひとすじで、しかも殺しても生きかえってくる根性の持主なんだ。ここが「婦系図」のお蔦さんと、根本的にちがうところです。

オリンピック映画はたとえ推選にしなくても、文部大臣としてはヒザを叩いて感心し、全国の女学生やなんかにみせた方がいいですよ。「敵は日教組である」なんて、くだらないことをいっているから教育は堕落するのだな。

これ程健全健康の精神にみち、母性をたたえた映画はかつてなかったのじゃないかと思うくらいです。

「外国映画はわからなくてね」と今でもカツブシのダシしかつかわないおばあさんよ、あなただってこの映画は絶対、面白がるはずです。

ストーリーはむしろ新派的、花柳章太郎さん的でありますしね。ソフィアとマルチェロは今の日本の舞台に翻訳すれば、山田五十鈴と森雅之というところです。

青くさい芸術映画も、子供の頃や、ペダンチック的映画評論家にはいいかもしれませんが、南京豆かじりながら涙こぼして映画を楽しみたい方にはこういうのがよろしい。

「自転車泥棒」や「靴みがき」をつくっていたデシーカのそれは堕落か！そうじゃない進歩ですよ。普通の成長過程を辿っている人間なら、こういう風に全くわかり易く　面白く、しかも人間万才みたいな作品をつくるようになるのが自然です。

少し賞めすぎましたかナ、ちょっとテレながらまた来月──。

《成人映画》
砂利穴にこもる情炎の息吹き！油まみれでのたうつ
女の嵐!!
砂利の女
製作／矢元照雄　監督／向井寛
キャスト　森まこ
西朱美
六月二十八日一斉公開
国映株式会社
国映

月刊「成人映画」創刊七月号 昭和40[illegible]編集発行人／川島信子 発行所／東京都新宿区[illegible]ビル内 電話(三五三)[illegible]五 現代[illegible] 定価[illegible]